

社 説

遞信事業と獨立せしむ可し

明年度予算の査定に付き遞信者要求の新事業費は一切削除せられたるよし電信郵便等改良擴張の計畫は又ふそれ聞く所に據れば遞信の當局者に於ては其削除に遇ふて策の出づる所を知らず責めては一部の擴張だけにても目的を達せんとて其財源を求むるに國庫の支出は固より望む可きに非ざれば種々に苦心の末、辛うじて一の財源を見出したりと云ふ其財源とは多分今郵便税に改正を加へば一錢の葉書を一錢五厘、二錢の郵便税を三錢とする等、其割合を増加し一方で收入を得て一方の擴張費に供する積りならんと云ふ果して事實ならんには言語道断の處置と云はざるを得ず我輩が急々増税の斷行を促したる所以なるに必要な事業費さへも削除したるを見れば尙ほ断行に躊躇するふどならん既に増税の決断を得ずとなれば新事業は固より断念の外なるかる可し當然の次第なるに然るに一方に一錢の増税も爲し得ざるに拘はらず財源を郵便税の増加に求めんとす其増加の爲めに幾許の收入を得るや知る可らずと雖も斯る策に依頼して目的を達せんとするは殆も自から自身の肉を食ふと一般、俗に云ふ居食の實を行ふものなり今の郵税の割合は他に比較して特に高まに非ざれども重量の制限甚だ窮屈にして一分一厘の相違にても直に増税を課するが如き法の得たるものに非ず苟も改良とあれば事務の擴張と共に其邊の思ふに斯る不都合の改正は單に一時の思付として實際には行はれざるとならんなれども若しも強ひて行はんと改良と稱して却て税額を増すが如きは改良に非ずして退歩と認めざるを得ず我輩の断じて取らざる所なり思ふに斯る不都合の改正は單に一時の思付として實に手段なしと雖も優柔不斷の政府は其事を望む不容易然その改正に反對するものなり左れば郵便税の増加は必然排斥可しとして扱新事業の實行は我輩の所謂増税を實行して新財源を得るの外に手段なしと雖も優柔不斷の政府は其事を望む不容易然その改正に反対するものなり

は外ならず事の便宜の爲めに國家事業などを名づけて政

府の手に寄りふとされども其性質は純然たる商賣事業

にして利潤を取るものがなれば其政策の割合に

乗算を以て利益を取る其利益は思はれども開業の改良に付して最も有利なるに然るに政府は自から

大見て一般の會計に空しながら其營業の改良擴張に付

ては一錢も支出せざるのみか更に郵便税の増加などはせず商品の價を高くし無理に資本を事業の擴張費を利せんとするが如き顧して商賣の法に非ざるなりふそあれ聞く所に據れば遞信の當局者に於ては其削除に遇ふて策の出づる所を知らず責めては一部の擴張だけにても目的を達せんとて其財源を求むるに國庫の支出は固より望む可きに非ざれば種々に苦心の末、辛うじて一の財源を見出したりと云ふ其財源とは多分今郵便税に改正を加へば一錢の葉書を一錢五厘、二錢の郵便税を三錢とする等、其割合を増加し一方で收入を得て一方の擴張費に供する積りならんと云ふ果して事實ならんには言語道断の處置と云はざるを得ず我輩が急々増税の断行を促したる所以なるに必要な事業費さへも削除したるを見れば尚ほ断行に躊躇するふどならん既に増税の決断を得ずとなれば新事業は固より断念の外なるかる可し當然の次第なるに然るに一方に一錢の増税も爲し得ざるに拘はらず財源を郵便税の増加に求めんとす其増加の爲めに幾許の收入を得るや知る可らずと雖も斯る策に依頼して目的を達せんとするは殆も自から自身の肉を食ふと一般、俗に云ふ居食の實を行ふものなり今の郵税の割合は他に比較して特に高まに非ざれども重量の制限甚だ窮屈にして一分一厘の相違にても直に増税を課するが如き法の得たるものに非ず苟も改良とあれば事務の擴張と共に其邊の思ふに斯る不都合の改正は單に一時の思付として實際には行はれざるとならんなれども若しも強ひて行はんと改良と稱して却て税額を増すが如きは改良に非ずして退歩と認めざるを得ず我輩の断じて取らざる所なり思ふに斯る不都合の改正は單に一時の思付として實に手段なしと雖も優柔不斷の政府は其事を望む不容易然その改正に反対するものなり左れば郵便税の増加は必然排斥可しとして扱新事業の實行は我輩の所謂増税を實行して新財源を得るの外に手段なしと雖も優柔不斷の政府は其事を望む不容易然その改正に反対するものなり

は外ならず事の便宜の爲めに國家事業などを名づけて政

府の手に寄りふとされども其性質は純然たる商賣事業

にして利潤を取るものがなれば其政策の割合に

乗算を以て利益を取る其利益は思はれども開業の改良に付して最も有利なるに然るに政府は自から

大見て一般の會計に空ながら其營業の改良擴張に付

ては一錢も支出せざるのみか更に郵便税の増加などはせず商品の價を高くし無理に資本を事業の擴張

費を利せんとするが如き顧して商賣の法に非ざるなり

ふそあれ聞く所に據れば遞信の當局者に於ては其削除に遇ふて策の出づる所を知らず責めては一部の擴張

だけにても目的を達せんとて其財源を求むるに國庫の

支出は固より望む可きに非ざれば種々に苦心の末、辛

うじて一の財源を見出したりと云ふ其財源とは多分今

郵便税に改正を加へば一錢の葉書を一錢五厘、二錢の郵便税を三錢とする等、其割合を増加し一方で

收入を得て一方の擴張費に供する積りならんと云ふ果

して事實ならんには言語道断の處置と云はざるを得ず我輩が急々増税の断行を促したる所以なるに必要な事

業費さへも削除したるを見れば尚ほ断行に躊躇するふ

どならん既に増税の決断を得ずとなれば新事業は固より

断念の外なるかる可し當然の次第なるに然るに一方に

一錢の増税も爲し得ざるに拘はらず財源を郵便税の

増加に求めんとす其増加の爲めに幾許の收入を得るや

知る可らずと雖も斯る策に依頼して目的を達せんとす

るは殆も自から自身の肉を食ふと一般、俗に云ふ居

食の實を行ふものなり今の郵税の割合は他に比較して

特に高まに非ざれども重量の制限甚だ窮屈にして一分

一厘の相違にても直に増税を課するが如き法の得たる

ものに非ず苟も改良とあれば事務の擴張と共に其邊の

思ふに斯る不都合の改正は單に一時の思付として實

に手段なしと雖も優柔不斷の政府は其事を望む不容易

然その改正に反対するものなり左れば郵便税の増加は

必然排斥可しとして扱新事業の實行は我輩の所謂増

税を實行して新財源を得るの外に手段なしと雖も優柔不

断の政府は其事を望む不容易然その改正に反対する

ものなり左れば郵便税の増加は必然排斥可しとして

扱新事業の實行は我輩の所謂増税を實行して新財源を得

るの外に手段なしと雖も優柔不斷の政府は其事を望む不

容易然その改正に反対するものなり左れば郵便税の増加は

必然排斥可しとして扱新事業の實行は我輩の所謂増

税を實行して新財源を得るの外に手段なしと雖も優柔不